

地域情報（県別）

【熊本】「ビールはノーカン」の土地柄だから…5年プロジェクトで肝がん撲滅！-田中靖人・熊本大学病院肝疾患センター長に聞く◆Vol.3

2021年3月5日（金）配信 m3.com地域版

熊本大学病院の肝疾患センターでは「熊本肝炎・脂肪肝プロジェクト」と銘打った、5年間にわたる肝疾患対策が動き出している。FIB-4 index計算サイトの開発・運用や整形外科・眼科におけるPCRを用いた肝炎ウイルス検査の研究に加え、アルコール問題への対応も検討している。当プロジェクトに関して、熊本大学大学院生命科学研究部生体機能病態学分野消化器内科学講座教授であり、熊本大学病院肝疾患センター長も兼任する田中靖人氏に詳しく話を聞いた。（2021年1月29日オンラインインタビュー、計3回連載の3回目）

▼第1回はこちら

▼第2回はこちら

——現状でFIB-4 index計算サイトはどのくらい使われているのですか。


当サイトをオープンした2020年12月のアクセス回数は684件で、そのうち計算は517回なされています。このうち肝疾患の疑いがある数値が出た率は45%でした。翌月の2021年1月は新聞報道などの影響もあってアクセス回数が大きく増え（5699件）、計算回数は3878回（38%）でした。そこから熊本大学病院の肝疾患相談室にかかってきた電話は15件、実際に受診に至ったのが4件という状況です。

これまで熊本大学病院の肝疾患相談室において電話対応した件数は年間で100件に届かないくらいでした。これにFIB-4 index計算サイトからの導線が加わったことにより、今後は相談件数の増加が見込まれます。さらに啓発に力を入れて、多くの方々にご利用いただきたいです。

このサイトの次のステップとして、FIB-4 indexの計算をした後にアルコール飲酒量の簡単なアンケートを入れようと計画しています（本取材後、飲酒機会に関する簡単な質問を追加。近い将来、簡単なアンケートによる「飲み過ぎ」を注意喚起するシステム）を改修予定）。そこから算出されたスコアを表示して、飲み過ぎの人に危険信号を表示しようと思います。また、そのデータを蓄積し、FIB-4 indexと飲酒量の関係などを把握できればと考えています。年間1万件ほど集まれば、かなり良い疫学データになるのではないのでしょうか。


熊本肝炎・脂肪肝プロジェクト

**FIB-4 index
計算サイト**



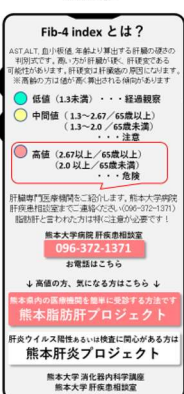
※ **危険域** 判定の方は専門医療機関
で精密検査を受けましょう
詳しくは、熊本脂肪肝プロジェクトの
ホームページをご覧ください。
お電話またはFAXで
患者様ご自身から申込み可能です。

**この画面で
実際の数値を入力**



結果が
光る

**FIB-4 index
の説明**



FIB-4 index計算サイト（田中氏提供）

——ウイルス性肝炎、NASHに加え、アルコール性肝炎についても目配りができるようにするのですね。

はい。近いうちに熊本県でアルコールの研究会を立ち上げる予定になっています。熊本大学の4講座（内科、外科、移植外科、精神科）の先生方が連携するので、横断的で大きな研究会になると予想しています。

肝疾患の撲滅を目指すなら、今まではブラックボックスのようにになっていた精神科病院や刑務所などにもアプローチしていく必要があると考えています。精神科はアルコール依存症を診ていますが、これは肝障害にとどまらず、脳や血管など広範に影響を及ぼします。精神科だけでなく他科とも連携して対応すべき問題だと思えます。

また、移植外科ではアルコール性肝硬変の患者さんをどうケアするかという問題があります。せっかく肝移植ができて、退院後にまたアルコールを飲んでしまったら元の木阿弥ですよ。そういうケースには精神科で飲酒量低減薬を処方するという連携の構想もあります。

なにしろ、九州人はお酒をたくさん飲みますからね。1日平均純アルコール量が30～60g（中等量）の飲酒者が少なくありません。私は昨年、名古屋から熊本に異動してきたのですが、どうもこの地域の方は、ビールをお酒だと思っていない節があるようでして（笑）。実際にはビールと焼酎、ビールと日本酒という形で飲んでいるのに、ビールをカウントせずに焼酎を飲んだ、日本酒を飲んだとしか申告しない人が多いようです。



田中靖人氏（田中氏提供）

——今後、肝疾患を軸にさまざまな領域と連携していくのですね。

はい。「熊本肝炎・脂肪肝プロジェクト」は一つの診療科や職種では収まらない大きなプロジェクトです。実はこのプロジェクトは5年間で完結したいという思いがあります。最初の1年で枠組みを作り、次にアウトカム評価をしていきます。また、整形外科や眼科でのPCRによる肝炎ウイルス検査を同時並行で走らせてます。私たちの目的である「肝がん撲滅」を達成するために、すべきことはたくさんあります。

——近隣県との連携についてはいかがでしょうか。

アルコール研究会については、宮崎県にアルコールと肝硬変の研究会がありますので、そこと連携を図ることを考えています。その他の取り組みについては、まずは熊本県での成功を目指します。熊本県で結果を出してから全国に広げていきたいです。

——まずは熊本県内での成功をつかむために、多くの医療関係者との協力が必要となるかと思います。熊本県内の医療関係者に向けてメッセージをお願いします。

先生方に一番知っていただきたいのは「ウイルス性肝炎→肝がん」というルートだけではなく、「非ウイルス性肝炎→肝がん」というルートもあり、現在ではそれが多くなってきているということです。それを踏まえた上で、日常診療の場などでFIB-4 index計算サイトを啓発の入り口にしていただけたらと思います。

私のモットーは、相田みつをさんが残した言葉「一生勉強、一生青春」です。私たち医療従事者は一生涯にわたり勉強し続けるのは当然として、それに加えて「一生青春する」ことが大事であると思います。青春とは新しいことを求めること、若者のようにチャレンジする気持を持つということです。そのようなスタンスでもって、熊本県の肝がん撲滅を目指して5年間の「熊本肝炎・脂肪肝プロジェクト」を駆け抜けたいです。先生方からは引き続きご支援を賜りましたら幸いです。

◆田中 靖人（たなか・やすひと）氏

1991年に名古屋市立大学医学部を卒業。同大学病院にて臨床研修を受け、名古屋第二赤十字病院での勤務を経て、1997年より名古屋市立大学大学院医学研究科に入学。1999年より米国立保健研究所（NIH）に留学し、2002年に帰国。その後は名古屋市立大学の講師、准教授となり、2008年より同大学病院肝疾患センター副センター長を兼任。2009年より同大学院病態医科学講座教授に就任した。2020年6月より現職（熊本大学大学院生

命科学研究部消化器内科学講座教授／熊本大学病院肝疾患センター長／消化器内科科長／光学医療診療部部長）。

【取材・文＝伝わるメディカル 田中留奈】

記事検索

ニュース・医療維新を検索

